

2020年6月11日

【新型コロナウイルス感染症バングラデシュで急増】

「今日食べるものがない」人々の命をつなぐ 緊急支援にご協力ください

オンライン報告会開催・支部事務局長ミトンが現地から報告します

6月9日の新規感染者が7万1675人。バングラデシュでは新型コロナウイルス感染症の拡大が収まりません。幼い頃、飢えで兄弟を亡くし、飢餓を終わらせることを人生の目標としているアタウル・ラーマン・ミトン(特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド/バングラデシュ支部事務局長)が、感染症の拡大と経済の停滞により、食料事情がさらに深刻になっている人々の窮状をオンライン報告会で伝えます。最貧困790世帯(約3950名)への20日分の食料支援について呼びかけます。

【オンライン報告会】

『アタウル・ラーマン・ミトンがバングラデシュからレポート 新型コロナの現状と緊急食料支援』

日時：2020年6月23日(火) 19:00~21:00

内容：バングラデシュの新型コロナウイルス感染症の状況、人々の暮らし/緊急食料支援事業の概要

報告：HFWバングラデシュ支部事務局長 アタウル・ラーマン・ミトン(通訳つき)

場所：オンライン(Zoom)による配信

参加費：無料(通信にかかる費用はご負担ください)

申し込み：ハンガー・フリー・ワールドホームページから

<https://www.hungerfree.net/news/17930/>

■【緊急食料事業】790世帯に20日間の食料となる米20kg、豆2kg、油500gを支援します。感染予防啓発も行います。

例えば、3000円で豆26kg=13世帯65名分

1万円で米200kg=10世帯50名分になります。

ご寄付のサイト：<https://camp-fire.jp/projects/view/292433>



多くの方のご参加を願っております。貴紙にてご紹介いただければ幸いです。また、報道関係のみなさまにも、ぜひご参加をご検討いただければと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。



SDGs 試される「誰一人取り残さない」という誓い

国連事務総長も新型コロナウイルスの危機を人類が乗り越えるために「最も貧しく脆弱な立場に置かれた人々と国々に対する最大限の金融・技術支援が必要」と語っています(2020/3/31国連プレスリリース)。SDGsが誓った「誰一人取り残さない」誓いを胸に強く持ち、感染拡大に配慮しながら世界の脆弱な立場の人々への支援を続けていきます。

本件に関するお問い合わせ先 特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド

広報担当 糟谷(かすたに)知子 E-MAIL pr@hungerfree.net FAX 03-3261-4701

URL <https://www.hungerfree.net/> TEL 03-3261-4700(在宅勤務日もあり、メールのほうが早く応答できます)

ハンガー・フリー・ワールドについて

1984年アメリカに本部を持つNGOの日本支部として活動を開始。2000年に日本に本部を置く国際協力NGOとして独立し、特定非営利活動法人の認証を取得。日本、バングラデシュ、ベナン、ブルキナファソ、ウガンダで活動。「飢餓のない世界」を創るため、海外では住民主体の地域開発、国内外では、アドボカシー、啓発活動、青少年育成に取り組む。

所在地

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-13 山商ビル8階

TEL 03-3261-4700 FAX03-3261-4701 E-MAIL info@hungerfree.net

平日:10:00-21:00 土:10:00-18:00

運営

設立	1984年4月
理事長	原田麻里子
事務局長	石川圭
会員数	463名(2019年12月現在)
寄付者数	1980名(2019年12月現在)
正会員数	37名(2019年12月現在)
役員数	9名(理事7名/監事2名)
事務局員数	18名(専従職員14名/非専従職員4名)
財政	総支出 412,845,502円(2019年度決算)



外出禁止措置で静まり返ったバングラデシュ・ボダの町。村への道路も遮断され、経済活動がストップし、人々の収入が途絶えた。国からの支援はまだ農村部に届いていません。(5月15日～18日ハンガー・フリー・ワールドバングラデシュ支部職員撮影)



手洗い、ソーシャルディスタンスなどに配慮しながら栄養価の高い野菜の栽培研修を実施しました(ベナン)



交通量の多い場所に、マスクの着用や手洗いの推奨などを呼びかける広告を設置しました(ブルキナファソ)